令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　520

事務事業名称		旧田中家鋳物民俗資料館管理運営事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1984(S59)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	旧田中家鋳物民俗資料館条例、旧田中家鋳物民俗資料館条例施行規則、旧田中家鋳物民俗資料館条例使用料に関する規則						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	展示や企画、講座等を通じて、歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人が、枚方の鋳物の歴史及び昔の暮らしについて理解を深める。						
	対象者(受益者)	地域を問わず全ての市民(歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人)						
	現状・課題	歴史や文化財への関心が薄く、資料館に行きたいという動機付けがされにくい。						
	事業の概要	所在地は、藤阪天神町5―1。枚方上之町の田中家は古くから鋳物業を営み、江戸時代には真継家から独占的営業を許され、河内国惣官鋳物師として河内の鋳物師を統率し、梵鐘、鍋、釜などを鋳造していた。 本市は、田中氏から鋳物工場と主屋の寄贈を受け、藤阪天神町に移築復原し、昭和59年10月資料館として開館した。鋳物工場では鋳物の歴史、主屋では民俗文化財を展示している。 平成20年に、「鋳物づくり」等ができる工房をオープンした。体験工房では「鋳物づくり」、「彫金」や「七宝焼」などが体験できる主催講座を開催するほか、美術・工芸などの創作活動を行うサークル等に有償(一部減免あり)で工房及び付属設備の貸し出しを行っている。						
	年間の主な事務	資料館での展示・企画、体験工房での講座開催、施設の維持管理事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.07人	—	—	—
再任用	1.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	2.70人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)	R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出 内訳 正職員、再任用、任期付職員	5,865	—	—	—		
歳出 内訳 会計年度任用職員	7,834	—	—	—		
歳出 内訳 特別職非常勤	0	—	—	—		
歳出 内訳 附属機関委員	0	—	—	—		
歳出 人件費計	13,699	—	—	—		
歳出 物件費計	13,360	—	—	—	14,582	91.6%
歳出計	27,059	—	—	—		
歳入 国庫支出金	0	—	—	—	0	
歳入 府支出金	0	—	—	—	0	
歳入 受益者負担(使用料・手数料)	43	—	—	—	170	
歳入 市債	0	—	—	—	0	
歳入 その他	1,071	—	—	—	1,661	
歳入計(物件費に充当される特定財源)	1,114	—	—	—	1,831	
一般財源(物件費充当分のみ)	12,246	—	—	—	12,751	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 歴史・文化財への関心を高めるイベントを実施する。	回	56 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	講座に市民等が参加する。
指標	参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	290	290	290	290	人
実績	355	ー	ー	ー	人
算出方法	資料館及び体験工房への来館者数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	枚方の鋳物の歴史や文化財について理解を深め、広く市民に周知される。
指標	イベントアンケートで「満足」と回答される割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	91	92	93	%
実績	99	ー	ー	ー	%
算出方法	来館者アンケートで「満足」と回答した人数／アンケート回答者数×100				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

体験工房を活用した講座やイベント等を開催することで、枚方の鋳物の歴史や文化財について理解を深められるとともに参加者の満足度があがる

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度事業において、直接アウトカムの指標の実績は99%であり、目標値である「90%」を上回る結果であった。これは、当館が主催するイベントの各参加者に対してアンケートを実施したものの総合計であり、市民ニーズに的確なサービスを提供できたものと考えている。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	令和6年度事業が好調であったことから、今後の取り組み方針については現状を維持する。引き続き、企画展示やイベントの実施に取り組むとともに施設の維持管理に努める。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　521

事務事業名称		市史編さん年報発行事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2004(H16)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	決裁						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市民が自分の住む地域の歴史を知ることで、郷土に対する愛着が醸成され、学生・研究者によって、本市の歴史研究の蓄積が進み、地域の歴史像がより豊かなものとなるとともに、本市の過去の写真や歴史に関する叙述がマスメディアや企業PR誌等に掲載され、市の魅力発信がなされている。						
	対象者(受益者)	①市民(枚方市域、自分の住む地域、自分の家の歴史を知りたい人、調べたい人)、②学生、研究者(枚方の歴史を調べたい人) ③マスメディア、企業(枚方市の歴史を調べたい人、歴史資料、写真等を利用したい人)、④職員(枚方の歴史に関する文章を作成したり、行政の過去の経過等を調べる必要の生じた部署、職員)						
	現状・課題	・令和5年度末に『新版楽しく学ぶ枚方の歴史』を発行したことにより、令和6年度はレファレンス件数が増加した。コロナ禍以降はインターネットでの情報収集が定着しつつあり、直接の問い合わせは減少傾向にある。 ・引き続き市史年報等の発行を行うほか、ホームページなどでの情報発信を行い、レファレンス機能を市民に広くアピールし、資料の利用を促進する必要がある。						
	事業の概要	枚方市史年報をはじめ市史に関する刊行物の編集、歴史資料の収集・整理・保存を行い、また、市民の歴史に関する照会及び資料利用等の要望に応えることで、市民の郷土史に対する理解を深め、市民文化の向上を図ることを目的として、歴史資料の収集・整理・保存ならびに市民の歴史に関する照会及び資料利用等の要望に応えるとともに、枚方市史年報を発行する。						
	年間の主な事務	・レファレンス、資料利用対応 ・歴史資料の収集・整理・保存 ・市史年報の編集、発行(11～3月)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.55人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	1.20人	—	—	—
特別職非常勤	3.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,228	—	—	—		
		会計年度任用職員	3,437	—	—	—		
		特別職非常勤	1,204	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		8,869	—	—	—		
	物件費計		1,825	—	—	—	1,297	140.7%
歳出計			10,694	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		381	—	—	—	250	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			381	—	—	—	250	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,444	—	—	—	1,047	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 枚方市史年報等を刊行する。	冊	700 冊	ー 冊	ー 冊	ー 冊

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 枚方市域、自分の住む地域、あるいは自分の家の歴史を知りたい市民が年報を読む。

指標: 販売部数(市史等刊行物)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	200	200	200	200	冊
実績	640	ー	ー	ー	冊
算出方法	販売部数(市史等刊行物)				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市民が自分の住む地域の歴史を知ることで、郷土に対する愛着が醸成され、学生・研究者によって、本市の歴史研究の蓄積が進む。

指標: レファレンス件数(枚方の歴史や史料に関する質問・照会のほか閲覧・複写及び貸出等の利用も含めた件数)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	250	260	270	280	件
実績	318	ー	ー	ー	件
算出方法	レファレンス件数				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

刊行物の発刊やレファレンス業務の周知を図ることで、市民が自分の住む地域の歴史を知り、郷土に対する愛着が醸成されていく。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和5年度末に発行した『新版楽しく学ぶ枚方の歴史』は令和6年度に516冊販売した。刊行に伴う啓発事業として市民歴史講座を開催したほか、「ひらかた電子図書館」へも掲載するなど周知に努め、レファレンス数の大幅増加につながった。 令和6年度末には、令和元年度発行の『禁野火薬庫爆発遭難手記』の巻末に、禁野火薬庫爆発に関する写真を追加掲載し、増補版として発行した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き市史年報等の発行を行うほか、ホームページなどでの情報発信といった啓発を継続し、レファレンス件数の増加に努める。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　523

事務事業名称		特別史跡百済寺跡再整備事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	投資的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	○	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2004(H16)年度　～　事業終了予定：　2024(R6)年度						
	根拠法令等	文化財保護法、地方自治法、枚方市専門委員設置規則						
	関係附属機関等	特別史跡百済寺跡再整備検討委員協議会						
	関係補助金等	該当なし　　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	百済王氏の氏寺として、あるいは中央の官寺以外、地方の寺院としては異例ともいえる本格的伽藍配置をもつ古代寺院跡として広く認知されるとともに、当時の古代寺院の景観を体感できる歴史学習の場として広く市民等に利用される状態。						
	対象者(受益者)	百済寺跡や百済王氏、奈良時代の歴史に関心のある、史跡公園を利用する市民/一般の史跡公園利用者や周辺に居住する市民、近隣市町の住民						
	現状・課題	整備から40年以上が経過し、老朽化・毀損が著しく、適切な遺構保存を図る必要がある						
	事業の概要	特別史跡百済寺跡は、昭和40年から42年の整備後、40年以上の歳月を経て各所の老朽化損壊変形が目立ち、表土の流失が著しい状態であることから、雨水流出抑制対策を含めた抜本的な遺構保存工事と合わせ、史跡公園として再整備を行う。再整備に当たっては、保存活用を図るための必要な調査及び資料の収集と史跡保全の指針を得るために専門委員で構成される特別史跡百済寺跡再整備検討委員協議会を設置し、百済寺跡の再整備に関する事項について調査審議し、平成16年度に測量調査実施、平成17年度から平成25年度の9年間で発掘調査を行い、並行して整備準備を行う。また、再整備に向け、平成24年度から平成25年度までの間に基本計画の策定と基本設計を行う。平成26年度に実施設計を行い、平成27年度から再整備工事に着手し、令和6年度に史跡公園の整備工事の完了を目指す。令和7年度は事業の報告書を作成する。						
	年間の主な事務	特別史跡百済寺跡の再整備工事の実施 整備報告書作成 報告書の印刷製本						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.62人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.03人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,767	—	—	—		
		会計年度任用職員	109	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		4,876	—	—	—		
	物件費計		108,370	—	—	—	112,946	95.9%
歳出計			113,246	—	—	—		
歳入	国庫支出金		50,529	—	—	—	50,632	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		50,400	—	—	—	54,700	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			100,929	—	—	—	105,332	
一般財源(物件費充当分のみ)			7,441	—	—	—	7,614	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 当初予算額に対する補助金費消率	%	100 %	ー %	ー %	ー %

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 古代寺院の景観を体感できる歴史学習の場として広く市民等に利用される。

指標: 市民が利用可能な面積

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	20,072	—	—	—	㎡
実績	20,072	—	—	—	㎡

算出方法: 整備が完了した部分の面積

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: —

指標: —

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—

算出方法: —

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

令和6年度に工事が完了したことで、啓発や利用に供せる状態にする。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和6年度に東側エントランス広場の舗装、緑化ブロック舗装、松や桜の植栽、防犯カメラの設置、説明板の設置等を行い、すべての工事が完了した。また、説明板の多言語(英語・中国語・韓国語)対応も実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	国への提出に向けて再整備事業をまとめた整備報告書を作成する。	R7年度方向性	終了

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	終了	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　524

事務事業名称		文化財活用事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	文化財の啓発普及により、文化財の保全について多くの市民の理解と共感が得られるとともに郷土愛が育まれ、文化財が次世代へ継承される状態。						
	対象者(受益者)	市民の共有財産である文化財の公開等、啓発普及事業への理解と共感をもつ市民						
	現状・課題	地域の歴史や文化財関連に関する情報を知る機会や接触する場が限定され少ない。						
	事業の概要	市内に点在する歴史文化遺産について、地域性や時代等を踏まえ、文化財の活用を進めるとともに有効に保存・活用を図るため、啓発普及事業を行う。						
	年間の主な事務	○市民歴史講座○文化財の展示(輝きプラザきらら展示ルーム等で、発掘調査の出土遺物等を展示)○発掘調査現地説明会○特別史跡百済寺跡の創建時のAR映像の紹介○出前講座○文化財説明板の建替・修繕○文化財防火デー(文化財を所蔵する社寺等で消防訓練を実施)○枚方宿での「まちかど歴史展示」						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.65人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	1.90人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	4,997	—	—	—		
		会計年度任用職員	6,910	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		11,907	—	—	—		
	物件費計		7,012	—	—	—	6,192	113.2%
歳出計			18,919	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		5,423	—	—	—	5,491	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			5,423	—	—	—	5,491	
一般財源(物件費充当分のみ)			1,589	—	—	—	701	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動（アクティビティ）

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① イベント等の実施件数（延べ）	件	16 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果（アウトプット）および変化・便益（アウトカム）

ロジックモデル

アウトプット（活動が産み出した結果）

アウトプット①

説明：市民が文化財の啓発普及事業に参加する。

指標：講座等の参加者数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2,400	2,450	2,500	2,550	人
実績	3,083	ー	ー	ー	人

算出方法：啓発普及事業の参加者数を合計する。

直接アウトカム（結果による変化・便益）

アウトカム①

説明：文化財保護に対して、市民の理解と共感が深まる。

指標：受講者アンケートで「満足」と回答した参加者の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	90	91	92	93	%
実績	82.8	ー	ー	ー	%

算出方法：受講者アンケートで「満足」と回答した人数/アンケート回答者数×100

5. 中長期的な変化・便益（中間アウトカム）

講座やイベント等を開催することで、歴史や文化財について理解を深められるとともに参加者の満足度があがる。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	大阪工業大学と連携して作製した百済寺跡の創建当時のイメージを体験できるARシステムについて、QRコードを読み込むことで自身のスマートフォン等で手軽に見ることができるよう改良を加え、3月末に百済寺跡現地での運用を開始した。また、市民歴史講座や前年度の発掘調査の成果を紹介する報告会を開催した。 旧田中家鋳物民俗資料館と市内の鋳物関連工場を見学する鋳物ツーリズムを実施したほか、農業振興課と連携して農作物の収穫と旧田中家のかまどを使用して炊飯体験をするツアーを新規で開催するなど、多様な啓発活動を実施し、参加者の増加に努めた結果、参加者数は目標値を上回ったものの、受講者アンケートで「満足」と回答した参加者の割合は、目標値を下回る結果となった。 アンケートの結果が目標値を下回った原因としては、一部の講座において、講師の声が聞き取りづらかったとの意見があり、評価が低下した点が考えられる。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針（改善・対応策など）

R7年度取組方針	きらら展示ルームや本庁舎での遺物展示、発掘調査報告会・市民歴史講座の開催などの従来の取り組みに加え、大阪工業大学との連携により、鍵屋資料館で三十石舟などが行き交った江戸時代の淀川の風景を体験できるAR映像の製作を進める。また、受講者アンケートの満足度が低い講座については、スピーカーの音量の調整など、環境の改善を行い、評価の向上に努める。その他、大阪観光局及び観光交流課と連携し、百済寺跡を活用したインバウンド向けツアーの造成に取り組むほか、楠葉台場跡については、大砲のモニュメント設置に向けた協議・準備を行う。	R7年度方向性	**拡充**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性（R5実績測定）	R7年度の方向性（R6実績測定）	R8年度の方向性（R7実績測定）	R9年度の方向性（R8実績測定）	R10年度の方向性（R9実績測定）
	現状維持 ▶	**拡充** ▶	ー ▶	ー ▶	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　525

事務事業名称		文化財保管施設等維持管理事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	多くの市民の理解と共感を得て、確実な文化財収蔵施設の維持管理を実施し、活用の機会拡大が図れるとともに、次世代へ確実に継承された状態。						
	対象者(受益者)	収蔵施設の維持管理を行い文化財の保存管理を行う職員及び職場						
	現状・課題	文化財を保存管理する文化財収蔵施設の老朽化が進行しており、適切な改善を施す必要がある。						
	事業の概要	貴重な文化財を保存管理するため、収蔵施設の維持管理を行う。蹉?東プレハブ文化財収蔵庫、元山田幼稚園施設文化財収蔵庫では、市内の発掘調査で出土した埋蔵文化財や市内で収集した民具などの文化財を収蔵している。山田分室では、市内発掘調査で出土した埋蔵文化財の復元等整理作業を行うと同時に一部を収蔵している。・蹉?東プレハブ文化財収蔵庫(翠香園町30、平成3年建築、延床面積129.6㎡)・元山田幼稚園施設文化財収蔵庫(甲斐田町1―27、昭和48年建築、延床面積408.06㎡)・山田分室(都丘町6―9、昭和60年建築、文化財課所管占有延床面積556.326㎡)						
	年間の主な事務	防災設備点検、空気環境測定、建築物定期点検						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.80人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.25人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,150	—	—	—		
		会計年度任用職員	909	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		7,059	—	—	—		
	物件費計		3,668	—	—	—	34,263	10.7%
歳出計			10,727	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		18,000	—	—	—	21,700	
	その他		256	—	—	—	199	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			18,256	—	—	—	21,899	
一般財源(物件費充当分のみ)			0	—	—	—	12,364	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 施設に必要な維持管理を実施する。	回	8 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	維持管理を通じて、収蔵される文化財の適正な保存管理がなされる。
指標	点検に係る当初予算額に対する決算額の割合【決算額／当初予算額×100】

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	70	—	—	—	%
算出方法	決算額／当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	—
指標	—

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	—	—	—	—	—
実績	—	—	—	—	—
算出方法	—				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	文化財保管施設等の維持管理のため、計画していた警備や清掃などの各種保守点検委託、及び日常的な建物の安全管理を予算の範囲内で実施した。外壁や屋根の劣化が進行していた山田分室について改修工事を実施した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	引き続き施設の計画的な改修や点検等を行うとともに、施設の日常管理を行う。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　526

事務事業名称		文化財調査事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1984(S59)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	調査によって把握された市域の歴史文化遺産を適切に保存し、 価値を効果的に市民に還元する。						
	対象者(受益者)	①歴史的文化遺産が継承されることにより好影響を受ける市民・事業者、②歴史文化遺産の所有者						
	現状・課題	市域に所在する歴史文化遺産について総合的な調査が実施されておらず、文化財的な価値がわからない。						
	事業の概要	歴史文化遺産を随時調査し、その年代、美術的・歴史的価値を判断し、文化財としての価値を把握する。						
	年間の主な事務	・文化財調査(随時)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.23人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.10人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,768	—	—	—		
		会計年度任用職員	364	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		2,132	—	—	—		
	物件費計		10	—	—	—	200	5.0%
歳出計			2,142	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			10	—	—	—	200	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 歴史文化遺産の調査件数	件	1 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	市域の歴史文化遺産について、美術的・歴史的価値が把握される
指標	歴史文化遺産の調査実績件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2	2	2	2	件
実績	1	—	—	—	件
算出方法	歴史文化遺産の調査実績件数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	文化財の価値を周知することにより、後世への継承につながる
指標	調査の実施により記録または報告に取りまとめた文化財の件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	2	2	2	2	件
実績	1	—	—	—	件
算出方法	歴史文化遺産の調査実績件数と同じ				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

歴史文化遺産について、調査対象を具体的に検討し調査を実施していくことにより、文化財としての価値が把握される。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	春日神社(津田)の秋祭りについて調査を実施した結果を踏まえ、江戸時代後期の年紀を持つ大提灯や大太鼓が現存し、地元の7つの町から提灯を出すという行為も江戸時代から変わらず続いている貴重な無形の民俗文化財であり、文化財保護審議会においても登録が適当であるという意見を得たことから、市では初めて無形の民俗文化財に登録した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	歴史文化遺産について、調査対象を具体的に検討し計画的に調査を実施する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　527

事務事業名称		文化財保護管理事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　不明		～	事業終了予定：　未定(継続実施含む)			
	根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし				補助金性質:	—	
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	多くの市民の理解と共感を得て、文化財の保護管理が適切に実施された状態。						
	対象者(受益者)	市民の共有財産である文化財への理解と共感をもつ市民						
	現状・課題	保存科学処理等計画的に行う文化財保護管理を、継続的に適正に行なう必要がある。/安全・快適に広く市民利用に供するため、除草や竹間伐など適正で効率的な遺跡の維持管理が必要						
	事業の概要	枚方市域に残された文化財(埋蔵文化財・民俗文化財)を将来に伝えるべく、適切に保護・保存するとともに、市民に対して文化財保護への理解と郷土への愛着を育むことを目的に、主に次の活動を行う。 ○茄子作遺跡・藤田山遺跡・サダ東プレハブ文化財収蔵庫・伝王仁墓等の文化財用地の草刈り等による保護管理○発掘調査で出土した遺物について、保存科学処理の実施。○特別史跡百済寺跡のバス専用駐車場の管理委託の実施○楠葉台場跡の適正な保存管理。						
	年間の主な事務	文化財保存用地及び施設の草刈り、出土遺物の保存科学処理、特別史跡百済寺跡バス駐車場管理、楠葉台場の管理						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.87人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.03人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	6,689	—	—	—		
		会計年度任用職員	109	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		6,798	—	—	—		
	物件費計		30,494	—	—	—	31,180	97.8%
歳出計			37,292	—	—	—		
歳入	国庫支出金		1,764	—	—	—	301,357	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			1,764	—	—	—	301,357	
一般財源(物件費充当分のみ)			28,730	—	—	—	0	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 各文化財に応じた保護管理(草刈り・保存科学処理等)	回	10 回	ー 回	ー 回	ー 回
② 楠葉台場の保存管理(草刈り)	回	7 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

アウトプット(活動が産み出した結果)

ロジックモデル

アウトプット①

説明: 文化財が適正に保存管理され、後世に残される

指標: 保護管理によって、滅失・毀損せずに翌年度に継承した文化財の件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	9	9	9	9	件
実績	9	―	―	―	件

算出方法: 遺跡(7)+天然記念物(1)+民俗(1)

ロジックモデル

アウトプット②

説明: 楠葉台場跡を安全・快適に市民が利用できる。

指標: (定点観測による)利用延べ人数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	120	140	160	200	人
実績	68	―	―	―	人

算出方法: 現地での定点観測

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: ―

指標: ―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―	―	―	―	―

算出方法: ―

アウトカム②

説明: ―

指標: ―

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	―	―	―	―	―
実績	―	―	―	―	―

算出方法: ―

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	文化財保存地及び楠葉台場跡の維持管理について、適正な維持管理を行った。 中振北遺跡の発掘調査出土の奈良時代の船の木材を転用した井戸枠や室町時代に水道施設として使われた竹筒などの木製品を保存科学処理した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	文化財保存地及び楠葉台場跡については、文化財保護および周辺住宅地の環境保全の観点に加え、引き続き市民が安全に利用することができるよう適切かつ計画的な管理に努める。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　528

事務事業名称		文化財保護審議会運営事務						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	行政運営区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1994(H6)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	文化財保護審議会						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	各分野の専門家で構成される文化財保護審議会により文化財の保存と活用に関する重要事項について調査・審議が行われ、その答申を受けて、文化財が適切に保存・活用されている状態。						
	対象者(受益者)	市職員						
	現状・課題	文化財を適切に保存・活用するため、各分野の専門的な知見を得る必要がある。						
	事業の概要	枚方市文化財保護条例の規定に基づき、文化財の保存と活用に関する重要事項について調査・審議するため、市の附属機関として、文化財保護審議会を設置・運営している。						
	年間の主な事務	・審議会の開催(随時)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.25人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	8.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	1,922	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	76	—	—	—		
	人件費計		1,998	—	—	—		
	物件費計		13	—	—	—	44	29.5%
歳出計			2,011	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			13	—	—	—	44	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 審議会を開催する。	回	1 回	ー 回	ー 回	ー 回

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①			R6	R7	R8	R9	単位
	説明						
	指標	目標					
		実績					
		算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	令和7年2月10日に審議会を開催し、令和5年度および令和6年度に実施した文化財の普及啓発に関する取り組みや発掘調査の概要、今後の事業の方針、特別史跡百済寺跡再整備事業の進捗などについて報告したほか、津田の秋祭りに関し、市登録文化財(無形民俗文化財)への登録の適否について専門的見地から意見をいただき、登録に至った。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	審議会からいただいた意見に基づいて事業内容を検討し、今後の文化財の保存と活用の取り組みに反映する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　529

事務事業名称		埋蔵文化財発掘調査事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	義務的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	非選択的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1971(S46)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	文化財保護法、枚方市文化財保護条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	調査対象となる事業主等の遺跡保護に対する理解を得ながら、文化財保護法等の趣旨に基づき、手続きや発掘調査等を実施し、埋蔵文化財の確実な保護を図るとともに、その成果をまとめ、公表・公開され、活用が行われている状態。						
	対象者(受益者)	埋蔵文化財調査の原因となる工事等を実施する事業者等(施主である市民も含む)/地域を問わず全ての市民						
	現状・課題	天候等の事情で発掘調査の施行に遅れが生じると、土木工事の工期の遅れや負担費用の増加が生じる場合があり、また、そのような場合があることの周知が必要である。						
	事業の概要	文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の記録保存及び埋蔵文化財の周知の徹底を図るために、必要な措置の実施に努めている。埋蔵文化財包蔵地内での土木工事等は、届出が義務付けられているため、事業者に「埋蔵文化財の発掘届出・通知書」の提出を求め、それまでの調査結果に基づき調査方法を決定し、事業者の協力を得ながら、必要に応じて試掘確認調査及び本発掘調査を実施し、その成果を概報・年報・報告書等で公表している。						
	年間の主な事務	埋蔵文化財包蔵地に関する窓口対応、文化財保護法第93条届出・第94条通知の受理及び大阪府への進達、事業者との調整協議、包蔵地内における確認調査・立会調査・慎重工事の対応、確認調査の実施及び報告						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	2.02人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	4.73人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	15,530	—	—	—		
		会計年度任用職員	15,548	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		31,078	—	—	—		
	物件費計		13,897	—	—	—	15,773	88.1%
歳出計			44,975	—	—	—		
歳入	国庫支出金		5,904	—	—	—	6,181	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			5,904	—	—	—	6,181	
一般財源(物件費充当分のみ)			7,993	—	—	—	9,592	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 発掘調査実施日数(延べ)	日	76 日	ー 日	ー 日	ー 日

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	埋蔵文化財が発掘され、その結果を取りまとめる。
指標	成果を取りまとめ、公表・公開した報告件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	30	30	30	30	件
実績	22	ー	ー	ー	件
算出方法	確認調査の数				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ー
指標	ー

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	ー	ー	ー	ー	ー
実績	ー	ー	ー	ー	ー
算出方法	ー				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	・令和6年度の埋蔵文化財届出処理件数は665件であった。 ・現地にて調査・立会を行った件数172件、内訳:試掘確認調査及び分布調査22件、工事立会150件 ・開発工事にともない実施した試掘確認調査及び分布調査(22件)について、成果をまとめ報告した。なお、試掘確認調査及び分布調査の実施については、場所や工事内容について遺構への影響の有無で判断している。 ・中振北遺跡で実施した本発掘調査(令和5年度から着手)では、平安時代中期～室町時代初め頃に整備された町を新たに発見した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	試掘・発掘調査及び工事立会の確実な履行のため、綿密な協議調整に努める。また、調査の成果を資料整備に反映させていく。突発的な発掘調査に備えるために、効率的な体制を整える。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　530

事務事業名称		枚方宿鍵屋資料館維持管理事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	持続的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	維持管理区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　2001(H13)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	地方自治法、枚方市公の施設における指定管理者の指定の手続等に関する条例						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人が、枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について理解を深めることのできる場所や機会として、広く周知されている。						
	対象者(受益者)	歴史・文化財に興味関心がある人、又は潜在的にその要素のある人						
	現状・課題	枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史についての関心が薄く、バス用駐車場がないため来館しづらい。						
	事業の概要	枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について広く啓発普及することにより、枚方の歴史に対する認識を深めるとともに、郷土愛を育てることを目的として、枚方宿鍵屋資料館指定管理業務として、①資料館の調査研究展示業務、②講座・イベント等の実施、③資料館の利用その他入場制限に関する業務、④利用料金に関する業務、⑤施設及び設備の維持管理に関する業務、⑥PR・企画業務、⑦その他必要な管理運営業務を実施する。						
	年間の主な事務	・指定管理料の支払い(4、7、10、1月) ・連絡会の実施(毎月) ・モニタリングの実施(年2回)						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.97人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	7,457	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		7,457	—	—	—		
	物件費計		22,724	—	—	—	23,160	98.1%
歳出計			30,181	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			22,724	—	—	—	23,160	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 施設保全のため、所要の修繕・補修工事を実施する。	件	5 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明	枚方宿鍵屋資料館が適正に維持管理される。
指標	計画的な修繕料・工事請負費に係る当初予算額に対する決算額の割合

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	100	100	100	100	%
実績	60	ー	ー	ー	%
算出方法	決算額／当初予算額×100				

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明	ー
指標	ー

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	ー	ー	ー	ー	ー
実績	ー	ー	ー	ー	ー
算出方法	ー				

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

資料館が適正に維持管理されることで次世代に継承されるとともに、枚方宿、京街道や淀川舟運の歴史について理解を深めることのできる施設として整備されている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	指定管理者により維持管理のために必要な施設保全・保守点検を行い、適正に維持管理を行っている。令和6年度は、破損した正門横の石垣、主屋の蔀戸、別棟の物置の扉等の所要の修繕を予算の範囲内で実施した。なお、令和6年度末で鍵屋資料館の指定管理期間が満了することに伴い、指定管理者選定委員会に諮問し、その答申を受けて新たな指定管理者を指定した。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	枚方宿や京街道、淀川舟運の歴史について広く普及啓発するため、枚方宿鍵屋資料館の適正な維持管理事業を継続する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	ー	ー	ー

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　709

事務事業名称		市指定文化財補助事業						
担当部署(R7年度機構)		部:　観光にぎわい部		課:　文化財課		区分	任意的事業	
基本項目	総合計画 基本目標	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち				細区分	任意的区分	
	総合計画 施策目標	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち				性質	文化・スポーツ	
	市長公約との関係性	所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
					—			
	事業期間	事業開始：　1996(H8)年度　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等	枚方市文化財保護条例、枚方市補助金等交付規則(昭和40年枚方市規則第30号)						
	関係附属機関等	該当なし						
	関係補助金等	文化財保護事業補助金　補助金性質:　事業費補助						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態	市指定文化財等が市民共有の財産として後世に継承する一助となり、適切な保存がなされている状態。						
	対象者(受益者)	市指定文化財等の所有者、市指定文化財等の見学者等						
	現状・課題	自然災害等によって、突発的な市指定文化財等の毀損が生じることがある。文化財の修復・維持管理には大きな経費がかかるため、経済的理由から文化財の滅失が余儀なくされる場合がある。						
	事業の概要	市域に所在する文化財について、要綱の規程による補助対象事業に補助金を交付し、文化財の保護を支援する。 枚方市文化財保存事業補助金交付要綱では、市指定文化財に対し、有形文化財の修理及びこれらの物のための防災設備の設置、天然記念物の保護増殖、文化財の管理又は保存等を補助対象事業とする。 文化財の管理又は保存には、建造物の所有者に40,000円、建造物を除く有形文化財又は記念物の所有者に20,000円を交付している。						
	年間の主な事務	・市文化財の管理又は保存に関する補助金について ・交付申請書の受理、交付決定(4月) ・文化財の管理又は保存状況の確認(1～3月) ・実績報告書の受理、補助金の確定(3月) ・補助金の支払い(4月) ・有形文化財の修理及びこれらの物のための防災設備の設置については補助対象事業があれば随時						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	0.27人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.00人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	2,076	—	—	—		
		会計年度任用職員	0	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		2,076	—	—	—		
	物件費計		340	—	—	—	483	70.4%
歳出計			2,416	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	0	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	0	
一般財源(物件費充当分のみ)			340	—	—	—	483	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
① 補助金交付申請数	件	14 件	ー 件	ー 件	ー 件

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①

説明: 市指定文化財等について、所有者による適切な保存管理の支援が図られる。

指標: 補助事業の実施件数

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	14	14	14	14	件
実績	14	―	―	―	件

算出方法: 補助事業の実施件数

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①

説明: 市指定文化財等が市民共有の財産として後世に継承につながる。

指標: 翌年度に継承する市指定文化財等件数(補助対象)

	R6	R7	R8	R9	単位
目標	14	14	14	14	件
実績	14	―	―	―	件

算出方法: 翌年度に継承する市指定文化財等件数(補助対象)

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

市指定文化財の適切な保存管理が行われ、市の財産として継承されている。

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	・交付申請の手続きの際に補助対象となる全件の市指定文化財の保存状況の確認を行った。問題なく保存しており、文化財を後世に継承できる状況である。 ・市指定文化財の廃渚院観音寺鐘楼など3件の建造物と、意賀美神社の算額など建造物以外の有形文化財・民俗文化財及び記念物11件に交付した(340千円)。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	市指定文化財の適切な保存管理が行われ、市の財産として継承されるように、引き続き補助金を交付する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	―	―	―

令和6年度　事務事業実績測定調書

1. 事務事業の基礎情報

調書番号　904

事務事業名称			文化財課運営事務					
担当部署(R7年度機構)			部:　観光にぎわい部	課:　文化財課		区分	行政運営事業	
基本項目	総合計画	基本目標	9.施策体系外			細区分	行政運営区分	
		施策目標	99.施策体系外			性質	内部事務・行政運営	
	市長公約との関係性		所信表明(R5年9月)	—	市政運営方針	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度
						—			
	事業期間		事業開始：　不明　～　事業終了予定：　未定(継続実施含む)						
	根拠法令等		地方教育行政の組織及び運営に関する法律、枚方市事務分掌規則						
	関係附属機関等		該当なし						
	関係補助金等		該当なし　補助金性質:　—						
詳細項目	事業の目的(最終アウトカム)・目指すべき状態・課題が解決した状態		課の事務事業が支障なく執り行われる環境の整備、人員体制、予算の確保等の実現						
	対象者(受益者)		文化財課職員						
	現状・課題		年々事務量が増加していることから、事務処理の効率化・平準化を進めるとともに実施すべき業務の選別と整理が必要。						
	事業の概要		文化財課の運営事務						
	年間の主な事務		・服務関係事務 ・文書管理事務 ・財務管理事務 ・公用車管理事務						

2. 事務事業への投入コスト(インプット)

人員体制 (人)	R6年度実績	R7年度実績	R8年度実績	R9年度実績
正職員	1.49人	—	—	—
再任用	0.00人	—	—	—
任期付職員	0.00人	—	—	—
会計年度任用職員	0.91人	—	—	—
特別職非常勤	0.00人	—	—	—
附属機関委員	0.00人	—	—	—

決算額 (千円)			R6決算額	R7決算額	R8決算額	R9決算額	R6予算額(参考)	予算執行率(参考)
歳出	内訳	正職員、再任用、任期付職員	11,455	—	—	—		
		会計年度任用職員	3,521	—	—	—		
		特別職非常勤	0	—	—	—		
		附属機関委員	0	—	—	—		
	人件費計		14,976	—	—	—		
	物件費計		2,273	—	—	—	2,880	78.9%
歳出計			17,249	—	—	—		
歳入	国庫支出金		0	—	—	—	0	
	府支出金		0	—	—	—	0	
	受益者負担(使用料・手数料)		0	—	—	—	0	
	市債		0	—	—	—	0	
	その他		0	—	—	—	5	
歳入計(物件費に充当される特定財源)			0	—	—	—	5	
一般財源(物件費充当分のみ)			2,273	—	—	—	2,875	

(留意事項)
※正職員・再任用・任期付の人件費は、人員配置をもとに平均人件費を乗算しています。
※「歳入」欄には物件費に充当されるもののみ記載されています。

3. 具体的な活動(アクティビティ)

年間の主な活動指標	単位	R6実績	R7実績	R8実績	R9実績
①			―	―	―

4. 活動による結果(アウトプット)および変化・便益(アウトカム)

ロジックモデル

アウトプット(活動が産み出した結果)

アウトプット①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

直接アウトカム(結果による変化・便益)

アウトカム①						
説明						
指標		R6	R7	R8	R9	単位
	目標					
	実績					
	算出方法					

5. 中長期的な変化・便益(中間アウトカム)

6. 取組実績に対する自己分析・総括

R6年度	費用対効果の観点から効率的に事務事業の執行を行っている。
R7年度	
R8年度	
R9年度	

7. 今後の取組方針(改善・対応策など)

R7年度取組方針	課の事務事業が支障なく執り行われる環境の整備、人員体制、予算の確保等を実現する。	R7年度方向性	**現状維持**

参考 方向性の経過	R6年度の方向性(R5実績測定)	R7年度の方向性(R6実績測定)	R8年度の方向性(R7実績測定)	R9年度の方向性(R8実績測定)	R10年度の方向性(R9実績測定)
	現状維持	**現状維持**	―	―	―